

# わ れ も こ う

第87号

2014年3月25日発行

高槻ライフケア協会

題字 林中八重子 さん

## 『4.2 世界自閉症啓発デー』に取り組んでみて思うこと

堀 切 きみよ

「朋(とも)」で調理をさせていただいている、堀切きみよです。知的障害のある娘がおり、「知的障害者育成会高槻手をつなぐ親の会」に所属し、その関わりで、社会福祉法人友遊福祉会の理事もしています。友遊の理事会で川浪さんからお声をかけていただいたことがきっかけで、「朋(とも)」に来させていただきました。同じ調理の仲間の方には障害のあるお子さんのお母さん方もおられて、共通の知人がいたり、また、ご近所の方が長らくお勤めだったことがわかつたりと、楽しいサプライズのある「朋(とも)」との出会いでした。

今回、何を書かせていただこうかとあれこれ考えましたが、やはりこの時期ですので、(宣伝をかねて)「世界自閉症啓発デー」のことを書こうと思います。

「世界自閉症啓発デー」とは、エイズデーなどと同じく国際的に定められたキャンペーンデイで、4月2日に、自閉症理解のための活動をすることになっています。加えて日本では独自に、4月2日から8日を「発達障害啓発週間」と定めています。

私たちも、高槻でこの「世界自閉症啓発デー」に取り組み始めて、今年で6回目を迎えます。第1回目は2009年で、そのきっかけ

は、手をつなぐ親の会の故・水田泰滋さんの呼びかけでした。まだまだ知らない人も多いと思いますが、高槻は全国でも早い取り組みで、少しづつ浸透してきたと思っています。

なかなか理解されにくい障害であるだけに、私たちもなんとか、わかりやすくお伝えできるようにと考え、講演会だけでなく映画上映や、絵画作品の展示を行ったり、少しでも関心を持っていただけるよう知恵を絞っています。

第1回目は、大阪府の制作した啓発映画「アイム・ヒア」と、大阪府発達障害者支援センターの新澤信子先生の講演。2回目は、多目的ホールでの講演のほか、市役所1階の展示室を使って発達障害や知的障害のある人たちの美術作品展示を行いました。第3回は、映画「ぼくはうみがみたくなりました」を上映。この時から、司会を障害当事者にお願いしたり、会場での物品販売や受付なども作業所メンバーたちが活躍し、当事者の参加をすすめました。第4回は「自閉症の人が見ている世界」と題して北摂杉の子会の中山清司先生の講演会、5回目はドキュメンタリー映画「ちづる」を上映し、高槻市子育て総合支援センター「カンガルーの森」の柏田史郎さんと北摂杉の子会船上利男さんにご登壇頂き、高槻

市での発達障害者支援についてミニパネルディスカッションを行いました。

幸い、毎年の開催を楽しみにしてくださつての方も増えているようです。近年、地域社会でも、「障害のある人のことを知りたい」「災害時などどうすればよいのか」等と関心を持ってくださる傾向にあり、この「自閉症啓発デー」が入門編として役立っていると自負しています。

最初、水田さんから「こんな日があるんだけど、なんかやってみないか」と持ち掛けられたのは、忘れもしない 1 月の終わりでした。え、やるのはいいけど、2 ヶ月しかないんですけど！ しかも、手をつなぐ親の会だけでやるのではなく、熱心に勉強会などに取り組んでいる「自閉症の人のバリアフリーを考える親の会はぐくみ」さんや、社会福祉法人にも協力していただきと「北摂杉の子会」にも声をかけ、ほぼ初対面のメンバーもいるという急ごしらえの実行委員会！ そのあとの激動の約 1 ヶ月半は、「プロジェクトX」さながら！ いま思い出しても、ようやったなという感じです。

おかげさまで第 1 回目から、300 人定員の生涯学習センター多目的ホールがほぼ一杯となり、胸をなでおろしました。アンケートをみると、「はじめてこういう学習会に参加した」という声も多く、保護者であっても子の障害を理解する機会が必ずしも充分でない状況が伺えました。

1 回やってみたらまあいいか、と気楽に考えていたのですが、2 回、3 回と続けるうち、「もっと知りたい」「続けてほしい」という声、また、親だけでなく「孫が障害児なので理解したい」「地域の自閉症の人を支援したい」という声もあり、ニーズの拡がりを感じました。

振り返ってみると、何をするにしても、人の出会いやつながりが大事だとつくづく思い

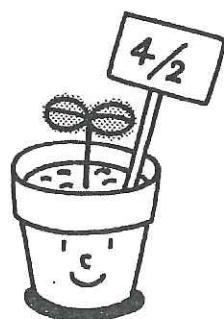
ます。活動の違う保護者の会ふたつと社会福祉法人という、いわば異業種の組み合わせで自閉症啓発デーの実行委員会がうまくできたことも、間を取り持つ人がいてくれたからこそでした。また、高槻では各種障害者団体と事業所とで構成する「高槻市障害児者団体連絡協議会」(略称・高障連)があり、障害種別を越えて共通の課題に取り組んでいます。いろいろな団体どうしが連携しやすい土台が日頃からあったことは大きかったと思います。

第 6 回目となる今回も、高槻市をはじめ、高障連や多数の団体の支援を頂くことができました。障害のある娘がいたからこそ、いろいろな方々と出会え、人の支え合いの大切さを学べ、貴重な経験ができてきました。障害者の家族でいることは、けしてマイナスではないと思っています。

「朋(とも)」においても、利用者さん、職員さんとの出会いがとても楽しく、よい機会をいただけたことに感謝しています。

第 6 回世界自閉症啓発デー「自閉症の人と共にあゆむ～たかつきで私たちができること」は、4 月 2 日午後 1 時 30 分から、高槻市立生涯学習センター多目的ホールにて開催します。講師は、大阪府発達障害支援センター アクトおおさかセンター長の堀内桂氏です。

よろしかったらご参加ください。



## 医療的ケア教員講習会を開催します

痰の吸引等医療的ケアが必要な人たちを支援する人材育成のひとつに、介護福祉士実務者研修の医療的ケア(50時間)があり、この授業を担当できる教員は「医療的ケア教員講習会修了者」とされています。

医療的ケア教員講習会は、看護師、保健師等で5年以上の実務経験のある方が対象です。

1日約7時間の研修を修了すると、介護福祉士実務者研修の教員や介護事業所の介護福祉士に痰吸引等の研修を行う指導看護師になります。

高槻ライフケア協会は、次の日程で医療的ケア教員講習会を開催いたします。受講をお考えの方は、お問合せください。

開催日 5月31日（土曜日）9月16日（火曜日）9時～17時

受講料 12,000円（消費税込）テキスト代3,000円別途必要です。

テキストは、「喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」「指導者用 喀痰吸引・経管栄養テキスト」（中央法規）を使用します

定員 20名（先着順）

講師 大宮チズ子 先生（大阪人間科学大学講師・看護師）



### 研修等拠点づくりの支援に感謝します



3月初旬、高槻町の庭に躑躅の薹をみつけて収穫、通所介護の利用者の方たちに香りを愛でていただき、お昼に炊き込みごはんをしていただきました。築70余年の古民家が建つ土地であればこそこの機会に恵まれました。古民家の雰囲気を活かし、畳敷きの研修室で介護技術の研修もはじまりました。

研修等拠点づくりの支援をお願しましたところ、2月末現在105名の方から総額3,830,000円の寄附金のご協力をいただきました。寄附金は、①高槻町改築工事2,237,500円、②介護用ベッド3台270,000円、③喀痰吸引・経管栄養モデル1台・喀痰吸引用チューブ等附属品202,020円、④エアコン設置交換4台434,925円、⑤シャワー用ストレッチャー1台318,675円、⑥入浴用車椅子1台50,000円、⑦法人本部シャッター交換工事210,000円など、合計3,723,120円を支出いたしました。エアコンは、設置から10年経過した通所介護や法人本部、北園町を交換、高槻町研修室うららに1台設置するなど、老朽化した設備の更新を図ることもできたことをご報告いたします。これらの整備にご理解とご支援を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

## ディだより

今年も1月3日からのスタートで、正月恒例の初詣や福笑い、書き初めをしました。「長い間筆なんか持ったことないから...」と言われながらも、昔とった杵柄、『初春』『迎春』『うまどし』などと、さすがに味のある元気な字を書かれていました。



節分には、大豆のかわりにピーナツで豆まきをし、一年の幸せと健康を願ってクレープで恵方巻きを作りました。手分

けしてホットプレートで焼いたクレープを東北東の方向を向いてまるかぶりしました。海苔巻に似たクレープは、ほんのり塩味で「とても美味しい」と好評でした。

最高齢の平井タカ様が、3月で100歳を迎えられました。お祝いに赤飯・紅白なます・ハンバーグ・ふきの煮物等の昼食とケーキを用意しました。催しものでは、ボランティアの方によるマジックショーをして頂きました。お祝いムードの華やかなショーに、皆さん目を丸くして楽しめていました。

利用者と職員一同から、「これからもお元気で」という願いをこめてたくさん鶴を折り、プレゼントしました。

平井様、これからもお元気で！

## 訪問介護だより

2月から、新たにたんぱく質・塩分制限食の調理が必要な利用者のケアが始まりました。退院前に病院管理栄養士の指導を受け、たんぱく質はご飯やパン・パスタなどにも含まれており、それらを調整した食品もたくさん出回っていることを知りました。

担当のケアワーカーたちは、おいしく食べていただけるよう試食づくりを行い、減塩食でもダシを効かせ、調理法を工夫することで美味しくなることを確認しました。

配食サービスの管理栄養士さんも調理の

様子を見に来訪して、「きっちりできている」とのことばをいただきました。

今後も関係事業所と連携を深めながら、利用者の生活を支えていきたいと思います。

(サービス提供責任者 H)



## 1階 生活介護

朋(とも)だより

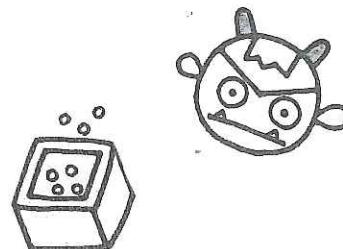
今年一年の始まりとして、絵馬を作りました。金色やピンク色など、色とりどりの手作り絵馬ができあがり、フロアの壁に飾りました。

節分といえば豆まき。今年一年利用者の皆さんに幸福が訪れるようにと願いをこめ、「鬼はーそと。福はーうち」と大きな声で唱えながら、スタッフが扮した鬼に向かって、豆の代わりの卵ボーロを投げつけ大騒ぎでした。

雛祭りには、お雛さまをちぎり絵で作成しました。顔の部分をくりぬいて利用者さんに顔をのぞかせていただき写真撮影。満面の

笑みのお雛様や、恥ずかしそうな照れ笑いのお雛さま。出来上がった写真を壁画に貼りつけると、フロアがとても賑やかになりました。

春の交流会にむけての作品づくりも進めています。さまざまな作品を展示していますので、是非お立ち寄りください。



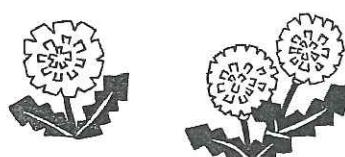
## 2階 小規模多機能型居宅介護

利用者のTさんは、視力の低下もあり、いつも下を向いていることが多いのですが、スタッフが話しかけると返事は即答です。大阪の住吉大社の近くで育ったTさんに「阿倍野にね、日本一高いビルができたんですよ。Tさん高いところ好きですか？」と尋ねると「嫌い」と即答。「私と一緒にやわ。二人で行けへんね」と笑っていました。

そんなTさんは口数が少ないのですが、実は面白い(大阪の)人ということがわかつ

てきました。女性スタッフが冗談で「私ね、実は男やねん」と言うと、さすがは大阪人、間髪入れず「何でやねん」とツッコミがはります。

新しい利用者のNさんも曾根崎育ち。「お初天神の近くで育ってん」と話しておられました。徐々に大阪パワーが増大し、新しい雰囲気が生まれるかもしれません。





## 実務者研修教員講習会に参加して

最初に私の背景について簡単に説明させて頂くと、知的障がい者のケアホームのサービス管理責任者をさせて頂いています。ケアホームの前は「施設入所支援」を行なっている事業所での勤務をさせて頂いており、高齢者福祉での経験は皆無です。

今回の研修のお話を頂いたときに、高齢者福祉の話が多くなることは予想していましたが、教授する側の視点での講義を聞いたことが無く、実際にどう伝えれば他の職員に良く伝わるのか？どのような視点で話を展開していくけばいいのか？の学習がしたく参加を決定しました。

実際に講義が始まって、参加者の多くが高齢者福祉をされている方で講義の中心も高齢者福祉の話でしたが、講義内容や他の参加者の話を聞いてみると、「福祉」という大きな分野の中では大きな差異は無い。ということを実感しました。我々が携わっているこの仕事は、知識・技術・倫理によって支えられる専門職であることも再確認することができました。支える利用者像は違っても、根本的な倫理感は等しく、支える利用者像の差異や現在の自分の組織内での役割のために優先的に身につける知識や技術が異なることを感じました。

教授する側の立場の視点で、数ある印象的な言葉の中でも一番心に残った言葉が、「誰にでも分かる授業を」という言葉でしたが、この言葉とその意味を理解する中で、今まで他者に何かを伝える際に、「こんな感じで伝わるであろう」や「この程度、説明すれば大丈夫だろう」という自分視点での思いでえていたことに気づき、大きな反省と「では、

ケアホームみやた 原田 智弘

伝えるためには具体的にどうすればいいのか？」という手段を新たに得ることができた感動がありました。

また、最近は何かを伝える際の手段にばかり凝りがちで、伝えたい目的や目標の存在が薄くなっていることにも8日間の研修の中で気づき、反省をしました。最初に書いたとおり、研修参加の目的が手段を学習するためではあったのですが、研修を振り返ると手段を得ること以外にも、高齢者、障がい者に関わらず「福祉」という業界の倫理の素晴らしさの再確認と、他の受講者との交流も深まつたことが本当に大きな収穫となりました。

もう少し具体的な学びの部分として、伝える側の視点としては、緊張と緩和を用意する。大事なことは繰り返し伝える。準備は万全に。相手からも教わる。などなどの数多くの視点。

どの講師からも伝わった共通の想いは、「我々に伝えたい」であり、それぞれの講師が手法を変えながら、我々に伝えてくださいました。また講義以外の部分でも他の受講生とのディスカッションや休憩時間等の情報交換などのなかで、対人援助の視点としてチームワークの大切さや、他者を尊重すること、人の多種多様性についての再確認などができました。

最後になりますが、今回の研修で本当に多くのことを教授してくださった講師の先生方、色々な場面で支えてくださった受講者の皆様方、そして貴重な場を提供してくださった高槻ライフケア協会の方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

本当にありがとうございました。学んだことを財産とし、今後につなげていきます。

## サービス提供実績報告

### ◇社会福祉法人

#### 《訪問介護事業》

	2013年12月～2014年2月
利用件数	3,066 件
利用時間	2,397.89 時間
生活援助	1,551.05 時間
身体介護	846.84 時間
介護予防	733.49 時間

#### 《障害者居宅介護事業》

	2013年12月～2014年2月
利用件数	3,018 件
利用時間	3,433.75 時間
家事援助	945.25 時間
身体介護	1,443.50 時間
通院介助	286.50 時間
重度訪問介護	264.50 時間
同行援護	494.00 時間

#### 《移動支援事業》

	2013年12月～2014年2月
利用件数	678 件
利用時間	1,888.5 時間

### ◇特定非営利活動法人

#### 《福祉移送サービス》

	2013年12月～2014年2月
利用件数	14 件
利用時間	810 分
利用距離	165 km

#### 《ケアワーカー派遣サービス》

	2013年12月～2014年2月
利用件数	393 件
利用時間	378.5 時間
家事援助	215.5 時間
身体介護	47.0 時間
社会的援助	116.0 時間

### 物品販売にご協力ください

#### □島原手延べ素麺 眉山の糸

長崎県島原市の白山製麺製です。

1 kg～5 kg : 1,200 円～5,300 円

\*高柳市、茨木市、島本町、枚方市は  
送料無料（その他の地域は実費）

#### □おとひめこんぶ

現在品切れ中ですが、2014年5月頃  
新物が入荷する予定です。

ご期待ください。

#### □コーヒー（豆、挽）

ブルマンとジャマイカのブレンド

1 kg : 1,700 円 500 g : 850 円



**受講生募集中** (詳しくはホームページ <http://www.tcn.zaq.ne.jp/tlca/> をご参照ください)

**同行援護従業者養成研修**

(2014年10月より、サービス提供責任者はこの研修の修了が必要となっています)

・5月9日(金)～5月28日のうち 計6日間

・会場 高槻ライフケア協会北園町研修室

・受講料 25,000円(テキスト代含む) ・定員 16名

**医療的ケア教員講習会** (詳しくは3頁に紹介しています)

・5月31日(土) 9～17時 ・会場 高槻ライフケア協会北園町研修室

・受講料 12,000円+テキスト代3,000円 ・定員 20名

**実務者研修教員講習会**

(職場のリーダーの方には是非受講をお勧めします。6頁の記事をご参照ください)

・6月7日～7月26日までの毎週土曜日(ただし、7/13と7/20は日曜日) 計8日間

・会場 高槻ライフケア協会北園町研修室 ・定員 20名

・受講料 55,000円+テキスト代3,780円



## ご協力に感謝します

<社会福祉法人> 2013年4月1日～2014年3月31 (敬称略・順不同)

◇寄付金 累計 3,919,808円

◇寄贈

濱田了子、堀越眞弓、奥谷寛一、

野口直美、三原道恵、井上吉弘、

小林フジ子、服部章子、船上利男、

小谷美也子、堀越眞弓、まる鍼灸院

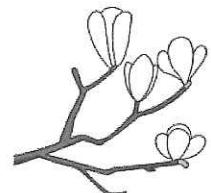
牧口明。

松野桂三、立石ツム子。

◎社会福祉法人高槻ライフケア協会への寄付金は、確定申告の際、税額控除制度の適用を受けることができます。

### 【編集後記】

いつも自転車を走らせる道で、街路樹のこぶしが白い花を咲かせています。開き始めの花は、女性の白い手が空に向かって少しずつひらくしていく様を思わせます。早春に他の木々に先駆けて白い花を梢いっぱいに咲かせるこぶしの花言葉は、「友情、信頼」。桜の蕾も色づき始め、いよいよ春本番を迎えます。



社会福祉法人高槻ライフケア協会 特定非営利活動法人高槻ライフケア協会

〒569-0806 高槻市明田町5-7

〒569-0802 高槻市北園町4-19

TEL (072) 683-4945

TEL (072) 682-4119